
「す・き」

篠崎優砂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「す・せ」

【Zマーク】

Z2735F

【作者名】

篠崎優砂

【あらすじ】

「すき」本当に好きな人にこの言葉は言えない。いつも押し黙ってしまうもどかしいような…甘い気持ちを…今もう一度ください。

プロローグ（前書き）

やつよければ「メンストレーダ」

プロローグ

「死んじゃえばいいのに…。」

あたしは唇を強くかんでハツ当たつた。

ふと大輝を見ると、何かいいたそうだった。

「あの…さ…。」

大輝は目を閉じて、また黙ってしまった。

その言葉の意味は？

過去を振り返つて…未来をつないで…やっとわかった。

プロローグ（後書き）

いつか大好きな人にこの小説が伝わればいいと思います。
よんできださりありがとうございました。

第一話・傷…？（前書き）

優砂と隼の命のシーンです！
ひょりじれつたい！？

第一話・傷！？

「Yuuusaa」

あたしだってこんなに傷つきたくない。

「塾変えたつてお前馬鹿なんだから。」

「きもいなあ！近づくなよ！」

友達は本当に数えるほどしかいない。

またあたしは…涙を流す。

でも…次の塾では。

無駄に足音を響かせて、あたしは真っ白いビルの前にたつた。
そして教室の場所を確認する。

一枚の板がすごく厚く感じる。

…あたしはドアノブにてをかけた。

「Takuya」

おぞるおぞる教室をのぞく、二つの大きな目と焦点があつた。

…見慣れない顔。

誰、だろ？

僕は何にも気づいていないふりをして田をそらした。

しかし、ほんの数秒後またその子は僕の視界に入った。

肩まで伸びた髪の毛とひらひらしたスカートを揺らしながら…僕の
二つ前の席にゆっくりと座った。
すつじぐのほほんとしてる。

この子は…いじめの世界とか知らないんだろうな。

僕は少しため息をついて、顔を伏せた。

「Yūusa~

あたしはドアをゆっくりと開けた。

もしかしてかつこいい人いないかな?とか期待する余裕は本当に少ししかなかった。

その前にいじめられないかな…?っていう不安があった。
しかし…そんな不安は三秒後にまったくなくなつた。

まじめそうな人しかいなかつた。

いじめとか…する暇なさそうな人ばかり!

少しづつほおが緩んでいく。

教室を影から見ると、そのうちの一人…もっともまじめそうな男子と目があつた。

ぴき…っと体が固まつた。

するとその男子は「お前になんか興味ない。」といふように口をそらす。

「ホウツ…

よかつた。いじめられる要素〇・一%もないじやん。

あたしは鼻歌交じりでふんわりと自分の席に座つた。

第一話・傷一? (後書き)

「メイテアント」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2735f/>

「す・き」

2011年2月2日14時21分発行